

We are Bearcats!!!

情報文化学科 2年 西海土 慎也

私は8月20日から12月13日までの、約4か月間アメリカ合衆国のミズーリ州にある **Northwest Missouri State University** に留学してきました。私が大学を選ぶ際に大きな目的としていたのがこの留学制度でした。これまでに **NPO** のボランティアツアーでフィリピンや新潟市のイベントで姉妹都市であるロシアのウラジオストクには短期間では訪れていましたが、4か月という長期間海外に身を置くのは今回が初めてでした。また、今までの経験で私の英語力の無さに気づいていたので英語を生活の一部にすることでそれを克服することも期待していました。夏季休業の前から留学ガイダンスなどが始まりましたが初回からガイダンスの時間を変更しなくてはならないことが分かり、スケジュール調整に少し手間取りました。**VISA** の発行には東京のアメリカ大使館に行く必要があり、夜行バスで行ったりもしました。留学メンバー同士で助け合いながらアメリカ留学までの準備はすることができました。しかしながら自分自身の準備、パッキングやクレジットカードの手続きが出発直前になってしまったので皆さんには早めにしておくことをお勧めします。紆余曲折ありましたが出発日には全員で成田空港に集合することができました。私はもともとパッキングをする際に必要最低限のものしか入れないと冬服などは日本から送ってもらう予定だったので重量オーバーはしませんでした。何人かはオーバーしていて追加料金を払っていました。ミネソタ州のミネアポリス国際空港に着き、乗り継ぎでカンザス国際空港に着きました。乗り継ぎでは飛行機が遅れていたのか時間がほとんどありませんでした。長時間のフライトを終え、カンザス空港からまたバスで1時間30分ほどの移動があり、ようやく大学に到着しました。大学に到着すると **Franken Hall** という寮に行きました。そこでは学校生活をサポートしてくれる現地の学生がおり、寮の手続きや寮の施設の案内をしてくれました。それが終わり夕食を食べていなかった私たちはお願いして近くの **Walmart** まで **Safe ride** という大学のシャトルバスを手配してもらいました。無事買い物も終わり、帰りのバスを待っていましたが一向に来ないので。仕方なく店員さんに頼み、電話をしてもらったのですが驚くことに **Safe ride** の営業時間が終わっていたのです。その後、親切な店員さんたちによって代わりの車が来てどうにか帰ることができました。この様に留学初日からハプニングに見舞われましたが日本ではあまり起こらないことに私は海外にいるのだという実感が湧いてきました。翌日からは学校案内を兼ねた自分たちで大学内を歩いて回る **Scavenger game** というものをしました。敷地がとても広いのでその時は全く覚えられず、少し心配になりました。授業は **A** グループと **B** グループに分かれて行われました。私はクラス分けテストで自分では出来なかったのですが **A** グループに振り分けられました。授業についていけるか悩む反面、先輩に **A** グループの方が厳しいけど自分のためになると言われていた為に頑張

We are Bearcats!!!

情報文化学科 2年 西海土 慎也

ろうとも思いました。授業はもちろん全て英語で行われ、初めは質問ばかりしていました。クラスメイトは色々な国から来ていて中国、韓国などのアジア圏やサウジアラビアやブラジルからの留学生もいました。授業は **grammar, reading, writing, listening, speaking, American culture, TOEIC** に分かれていました。ほとんどの授業で毎日課題が出され、後半の授業ではとても多くの課題に追われました。また、課題の中にはノートに書くものだけでなくパソコンでレポートをつくるものや1週間の間に何らかのイベントに参加し、外国人と話すといったものもありました。TOEICの授業では基礎的な英語力を付ける為にTVを見るという変わり種もあり楽しく学ぶことができました。先生たちも個性豊かです。いつも楽しく音楽とダンスの好きなMrs. K。彼女は私がアメリカでの携帯を買うときにサポートしてくれました。Aグループの**reading, writing**を担当でした。**grammar, listening/speaking**はMrs. Hardeeという先生で優しく細かいところまで教えてくれました。私は授業後によく質問していたのですが丁寧に教えてもらい疑問が解決することができました。American cultureのJarretはハンティングとアウトドアが趣味の少し山男の様な先生でした。彼は大学院に通っていて正式な先生ではなかったのですが、私と話が合い色々なことを教えてくれました。ネイティブアメリカンや西部の話動画を使いながら分かりやすく説明してくれました。私たちのプログラムのコーディネーターでもあるDr. Footは忙しい中TOEICの授業を受け持ってくれました。忙しい時にはクラスの皆とスターバックスでSmalltalkをする時もあり、それは私のお気に入りでした。彼の課題は一風変わっていてTVを見るものや人と会話するものもありました。どの授業もそうですが留学当初は先生たちの会話スピードについていけず理解するのにとても時間がかかってしまいました。しかし、回数を重ねるうちにだんだんと分かるようになってきました。私の文法はめちゃくちゃですがこれまでの経験から少しなら間違った英語でも相手は理解してくれることを分かっていたので、授業中もどんどん質問していききました。先生方も質問の仕方が間違えていたら訂正して正しい文法を教えてくれました。授業の進め方も競争するような時もあり、勝つとご褒美がもらえました。こどもだましの様ですがグループに分かれて勝敗を争うことによってそのことがモチベーションに繋がったように思いました。また授業以外でもカンパセーションパートナーという制度があり週に数回ネイティブの人と1時間ほど会話をするというものがありました。私のパートナーはLaurenという4年生の女の子で大学新聞の編集者でスペイン語も学んでいるという勉強熱心な学生でした。私たちは話題が二転三転することも気にせずたくさんトピックを話しました。私がアメリカのバーに行ってみたくと毎回の様に言っていたので誘ってもらい一緒に地元のバーに行ったこともありました。そこでは人種も年齢も関係なく

We are Bearcats!!!

情報文化学科 2年 西海土 慎也

色々な人と会話をすることができた貴重体験となりました。またある時は彼女にインタビューをしてもらいそれが新聞に載るということもあり恥ずかしくもうれしい出来事でした。大学内のイベントやアクティビティは **Belinda** という元気な女性がスケジュールなどを作成してくれ、私たちはその中で観劇やコメディショーなど様々な体験ができました。大学の **SAC** という学生団体は週に1度新しい映画を大学内の施設で見るというイベントがあり、これは英語能力向上にもつながり、他の国々の人と喜怒哀楽を共有することができました。また、この大学はアメリカンフットボールが強く毎回の様に観戦しました。学生は無料で観ることができるというのも大きな利点でした。他にも野外でのダンスパ



ーティーなど私が好きな系統のイベントが多かったのはとてもうれしかったです。そこで顔見知りが増えることもあり、後々の交友関係に影響しました。アメリカの行事としてハロウィンや **Thanksgiving day** など学外でのイベントも様々な人たちと関わる機会になったと思いま

す。ハロウィンでは街中に出かけ色々なコスチュームを見たり私自身も寮にきた子ども達にお菓子を渡すときにはゾンビの仮装をしたりととても楽しかったです。近くの寮では寄付を兼ねたお化け屋敷が開催されており私たちは2, 3周もしてしまいました。授業ではハロウィンの起源の話をしたり **Mrs. Hardee** は魔女のコスチュームに身をまったりしていました。このことで表面的な知識だったハロウィンが少し理解できたように思えます。**Thanks giving day** は **Pat Null** さんというハンターを兼業でされている方の家庭にお世話になり、鹿狩りに同行させてもらいました。残念ながら **Pat** さんの求めている大きさの鹿はおらず夕食に並ぶことは叶いませんでしたが野生の鹿を見ることができました。彼の家には多くの動物のはく製や毛皮があり、とても刺激的でした。またビリヤード台もあり私は毎日のようにビリヤードをすることができました。滞在中には彼の指導の下ハンター仲間と一緒に実銃に触れ、射撃体験をしました。私自身アメリカの銃社会というものに以前化興味があり、**Pat** さんも職業柄小火器を収集していたので様々な種類の銃を撃つことができました。その中でも狩猟兼自宅防衛用の散弾銃は撃った瞬間に恐ろしい反動と銃声が響きましたが爽快感もあり、私は射撃の虜となりました。夜には彼の友人たちと篝火を囲んで食

We are Bearcats!!!

情報文化学科 2年 西海土 慎也

事をしました。皆の会話はとても楽しく私に面白い話や知らなかった英語を教えてください、とても楽しい夕食となりました。Thanks giving day 当日には彼の姉の家を訪れるために朝早くに出発し彼の母と一緒に向かいました。着くとすぐに家族の皆さんが快く歓迎してくれ special meal の前の前菜を用意してくれました。それがまたとてもおいしくそこには Pat さんの作った鹿肉や猪肉のソーセージやピクルスなどが並びそれだけでもおなか一杯になりそうなメニューでした。それから家族の皆さんとアメリカンフットボールの特別試合を TV で観戦しながら談笑したりたくさんいた犬たちと遊んだりして夕食の完成を待ちました。そしてついに夕食ができるとみんなで手をつなぎお祈りをしました。実際にこのようなお祈りをすることで敬虔なキリスト教徒の感覚を少しでも共有できたように思えます。最終日には教会に行き、日曜日のミサを経験することができました。フィリピンでもミサには参加したことがあったのですがそれとはまた違った見方をすることができました。ホームステイが終わった後も休日に Pat さんは自然公園に連れて行ってくれたりおすすめのハンバーガーグリルに連れて行ったりしてくれました。まるで家族の様に振る舞ってくれた彼には感謝してもしきれないです。留学全体を通して振り返ってみると多くの人に支えられて英語を学ぶことに集中できたということが分かりました。そのことを忘れずこれからも学ぶことに対する学ぶことへの意欲を失わず継続して頑張っていきたいと思えます。

